

授業科目名	音楽科教育法Ⅲ	担当形態	単独		
		開講学期	春学期		
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	3
教職免許					
科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等					

※教員免許状取得のための授業科目は、ブルーの項目についても記載があります。

＝授業のテーマ及び到達目標＝

教授の内容(教材)への知識、理解を深めること目指します。教育法Ⅰ、Ⅱにおいて「状況判断」「迅速な対応」への基礎訓練が済んでいるという前提で、定番の教授法をマニュアルとして自ら編めることを理想とします。

同時に小学校・中学校・高等学校学習指導要領の解説を中心とします。並びにそれらの教育課程と、学習指導案の記述との関連について学びます。

＝履修の条件と学習の方法＝

音楽科教育法Ⅰ、Ⅱの単位を取得していること。高校教科書については、こちらでも用意しますがもし可能ならば各自用意できることが望ましいです(音楽之友社、教育出版社、教育芸術社のものであれば何でもよろしい)。

＝授業の概要＝

主として中学校の歌唱・器楽・創作・鑑賞の指導法を楽曲を指定して行います。主たるものは歌唱指導になります。

これと並行して学校教育における“音楽科(授業として営まれる音楽活動)の原理原則を理解し、実践への基盤として利用出来るレベルにまで定着させることを目指します。

＝授業計画＝

- 1回 中学校、歌唱指導 (一年①)
- 2回 中学校、歌唱指導 (一年②)
- 3回 中学校、歌唱指導 (一年③)
- 4回 中学校、歌唱指導 (二年)

- 5回 中学校、歌唱指導（三年）
- 6回 中学校、器楽指導
- 7回 中学校、鑑賞指導①
- 8回 中学校、鑑賞指導②
- 9回 日本の音楽における指導
- 10回 諸民族の音楽に関する指導
- 11回 高等学校音楽Ⅰの指導①
- 12回 高等学校音楽Ⅰの指導②
- 13回 高等学校音楽Ⅱ、Ⅲの指導
- 14回 実際の教授例について（VTR）
- 15回 実際の教授例について（学習指導案）

＝テキスト（必携）＝

教育芸術社「中学生の音楽」1、2・3 上、2・3 下、器楽
教育出版社「中学音楽 音楽のおくりもの」1、2・3 上、2・3 下、器楽

＝参考書・参考資料（必携）＝

中学校学習指導要領（H29年改訂）、高等学校学習指導要領（H20年改訂）
音楽之友社「改訂版 高校生の音楽」1, 2, 3
音楽之友社「ON!」1, 2
教育芸術社「高校生の音楽」1, 2
教育芸術社「MOUSA」1, 2
教育芸術社「Joy of Music」

＝成績評価の方法と評価の基準＝

演習方式です。ただし、担当者を決めるのではなく、一つの時間の中で全員が同じ教材に対して働きかけます。一回一回の授業が「試験」としての意味がありますので、欠席することのマイナスは大きいと考えてください。教材は講義終了時に次週用いるものが示されます。原則として中学校の教科書から指定されますが、高校教科書から指定する場合はプリントとして配布します。

＝その他＝

履修人数によって実習の方法が変わることがあります。